

$$S = f^2 \sqrt{CD^2}$$

- S ハ中間軸ノ徑(吋ニテ)
- D ハ氣筒ノ徑(吋ニテ)
- C ハ行長(吋ニテ)
- f ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒	數		飛輪ヲ有セサル場合ノ定數	飛輪ヲ有スル場合ノ定數
	四「サイクル」單働發動機	二「サイクル」單働發動機		
四	二	〇・四五六	〇・四〇五	
六	三	〇・四三六	〇・四〇〇	
八	四	〇・四三六	〇・四〇九	
一〇	五	〇・四三六	〇・四二〇	
一二	六	〇・四三六	〇・四二七	
一六	八	〇・四六六	〇・四六一	

行長カ氣筒ノ徑ノ一・二倍以上一・六倍以下ノ場合ニ於テハ中間軸ノ徑ハ左式ニ依ルコトヲ得

$$S = f(0.735D + 0.273C)$$

三 螺旋軸

$$S_1 = 0.96S + 0.01P$$

- S₁ ハ螺旋軸ノ徑(吋ニテ)
- S ハ前號ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(吋ニテ)
- P ハ螺旋推進器ノ徑(吋ニテ)

螺旋軸ノ徑ハ中間軸ノ徑ノ一・一一倍ヨリ小ナルヘカラス
 進力軸ノ環ノ間ニ於ケル徑ハ本條ノ算式ニ依リ定メタル中間軸ノ徑ニ其ノ百分ノ五ヲ増スヘシ

第百十一條 氣筒内ノ最大壓力毎平方吋五百封度ヲ超ユル「ヂーゼル」式發動機ノ鋼製軸ノ徑ハ前條ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數ヲ乘シタルモノト爲スヘシ

$$K = \sqrt[3]{\frac{P}{500}}$$

K ハ係數

P ハ氣筒内ノ最大壓力(毎平方吋封度ニテ)

第十二條 氣筒内ノ最大壓力每平方吋二百五十封度ヲ超エサル發動機ノ鋼製軸ハ左ノ算式ニ依リ其ノ徑ヲ定ムヘシ

一 曲拐軸

$$S = f^2 \sqrt{CD^2}$$

S ハ曲拐軸ノ徑(吋ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(吋ニテ)

C ハ行長(吋ニテ)

f ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒ノ數	近海航路以上ノ船舶			沿海航路以下ノ船舶		
	軸受ノ間ニ一筒ノ曲拐ヲ有スルモノ	軸受ノ間ニ二筒ノ曲拐ヲ有スルモノ	軸受ノ間ニ一筒ノ曲拐ヲ有スルモノ	軸受ノ間ニ二筒ノ曲拐ヲ有スルモノ	軸受ノ間ニ一筒ノ曲拐ヲ有スルモノ	軸受ノ間ニ二筒ノ曲拐ヲ有スルモノ
一、二、三又ハ四	一又ハ二	〇・三三	〇・三七	〇・三一	〇・三五	〇・三五
六	三	〇・三五	〇・三九	〇・三三	〇・三七	〇・三七
八	四	〇・三七	〇・四一	〇・三五	〇・三九	〇・三九

一	六	〇・四二	〇・四七	〇・四〇	〇・四五
---	---	------	------	------	------

二 中間軸及螺旋軸

$$S = f^2 \sqrt{CD^2(n+3)}$$

S ハ軸ノ徑(吋ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(吋ニテ)

C ハ行長(吋ニテ)

n ハ氣筒ノ數但シ「サイクル」發動機ニ在リテハ氣筒ノ數ヲ二倍シタルモノ

f ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	近海航路以上ノ船舶	沿海航路以下ノ船舶
中間軸	〇・一五〇	〇・一四〇
全通黃銅卷ヲ施セル螺旋軸	〇・一六五	〇・一五五
前記以外ノ螺旋軸	〇・一七五	〇・一六五

進力軸ノ環ノ間ニ於ケル徑ハ本條ノ算式ニ依リ定メタル中間軸ノ徑ニ其ノ百分ノ五ヲ増スヘシ

第百十三條 鐵製又ハ抗張力不明ナル壓延黃銅製軸ノ徑ハ前三條ニ依リ算定シタルモノニ鐵製軸ニ在リテハ其ノ百分ノ五ヲ、壓延黃銅製軸ニ在リテハ其ノ百分ノ十五ヲ増スヘシ

第百十四條 起動、蒸發又ハ加熱用燈ハ適當ニ之ヲ保持シ且使用中火焰ノ露出セサル様装置スヘシ

第百十五條 電氣點火式ナルトキハ電線ハ完全ニ絶縁シ且油管、油槽又ハ油ト接觸セシムヘカラス

「コンミュテーター」ハ之ヲ適當ニ蔽圍シ又火花線輪ハ爆發性瓦斯ニ露出セシムヘカラス

第百十六條 排氣管及消音器ニハ適當ナル冷却装置又ハ防熱装置ヲ爲スヘシ

排氣管ノ船外排出口カ滿載吃水線ノ下部又ハ其ノ附近ニアルトキハ不還瓣ヲ備フヘシ

第百十七條 冷箱水ノ吸入口ハ彎曲部ニ於ケル外板ノ接近シ易キ箇所ニ設ケ之ニ瓣又ハ嘴子ヲ取附クヘシ

前項ノ吸水管ニハ芥除器ヲ設クヘシ

第百十八條 氣化器及蒸發器ニハ自働送油遮斷装置ヲ設クヘシ

氣化器及蒸發器ニハ金網ヲ有スル油受ヲ設ケ之ニ排油装置ヲ備フヘシ

氣化器又ハ蒸發器ト氣箱トノ間若ハ氣化器又ハ蒸發器ノ空氣吸入口ニハ金網ヲ設クヘシ

第百十九條 油槽ト氣化器又ハ蒸發器トヲ連結スル油管ノ兩端ニハ瓣又ハ嘴子ヲ備フヘシ

第百二十條 氣槽ノ製造ニ使用スル材料ニ關シテハ本編第二章中汽罐ノ製造ニ使用スル材料ニ關スル規定ヲ適用ス但シ鍛合ヲ行フヘキ鋼板ノ抗張力ハ一平方吋ニ付三十噸以下トシ又無接合ノ氣槽胴板ニ在リテハ伸長ノ割合ハ規定ノ百分率ヨリ二ヲ減スルコトヲ得

第百二十一條 氣槽ノ構造ニ關シ特ニ規定ナキモノハ本編第四章ノ規定ヲ準用ス
氣槽胴ノ構造ニ鍛合ヲ行フトキハ之ヲ累接鍛合ト爲シ瓦斯銲接又ハ電氣銲接ト爲スコトヲ得ス

第百二十二條 氣槽胴ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ鉸釘接合ノ胴ニ付テ

ハ本編第四章ノ規定ヲ準用ス

一 胴ノ厚八分ノ五吋以上ナルトキ

$$P = \frac{C \times S \times (T-2)}{D}$$

二 胴ノ厚八分ノ五吋未滿ナルトキ

$$P = \frac{C \times S \times (T-1)}{D}$$

P ハ最大壓力(每平方吋封度ニテ)

D ハ胴ノ最大内徑(吋ニテ)

T ハ胴ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

S ハ胴板ノ最小抗張力(每平方吋噸ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

胴ノ厚	無接合ナルトキ	累接鍛合ナルトキ
八分ノ五吋以上ナルトキ	七七	五四
八分ノ五吋未滿ナルトキ	六九	四八

第二百二十三條 胴ニ鍛合シタル氣槽ノ扁平鏡板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{290 \times T^2}{D^2}$$

P ハ最大壓力(每平方吋封度ニテ)

T ハ鏡板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

D ハ鏡板ノ徑(吋ニテ)

第二百二十四條 氣槽ニハ適當ナル安全瓣ヲ備フヘシ但シ氣槽ニ連結セル空氣壓搾機ニ安全瓣ヲ備ヘ其ノ最大壓力カ氣槽ノ最大壓力ヲ超ユルコトヲ得サルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

氣槽ニハ其ノ底部ニ適當ナル排水裝置ヲ設クヘシ

内徑六吋ヲ超ユル氣槽ニハ内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル検査孔ヲ設クヘシ

第二百二十五條 無接合又ハ累接鍛合ノ氣槽ハ製造後水壓試験ヲ執行スル前適當ニ之ヲ燒鈍スヘシ

燃油管ニハ無接合銅管ヲ用キ其ノ接合部ハ金屬製圓錐形接合ト爲スヘシ

第二百二十六條 氣槽及油槽ハ新製シタルトキ左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 鉸釘接合ノ氣槽ハ每平方吋ノ最大壓力三百封度以上ナルトキハ之ニ二百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ
 - 二 前號以外ノ氣槽ハ最大壓力ノ二倍
 - 三 壓力ヲ受ケサル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘十五呎以上ノ水高壓力
 - 四 壓力ヲ受クル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘其ノ受クル最大壓力ノ二倍但シ十五呎ノ水高壓力ヨリ少カルヘカラス
- 第二百二十七條 「ヂーゼル」式發動機ヲ備フル機關室ニハ正空氣壓搾機ノ外充分ナル能力ヲ有スル副空氣壓搾機一箇ヲ備フヘシ
- 機關室ニハ前項ノ副空氣壓搾機ノ外氣槽充氣用トシテ壓搾空氣ヲ使用セサル發動機又ハ汽機ヲ以テ運轉スル副空氣壓搾機一箇ヲ備フヘシ
- 第二百二十八條 「ヂーゼル」式發動機ニ在リテハ噴油用氣槽ニ故障ヲ生シタル場合少クモ起動用氣槽一箇ヲ噴油用トシテ使用シ得ル様装置スヘシ
- 第二百二十九條 發動機ノ曲拐室ヲ密閉シタルモノニ在リテハ隨時滑油ヲ排出シ得ヘキ装置ヲ設クヘシ

木船ニ在リテハ燃料油又ハ滑油カ木材ヲ浸潤セサル様適當ナル金屬製又ハ金屬張ノ油受ヲ設ケ之ニ排油装置ヲ備フヘシ

第二百三十條 油槽ハ船内ノ安全ナル場所ニ置キ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル安全装置ヲ設クヘシ

第二百三十一條 油槽ノ注油管口ハ甲板上ニ開放シ之ニ螺旋蓋ヲ備フヘシ
揮發油槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ逃出瓣ヲ備ヘ之ニ排氣管ヲ設クヘシ又壓力ヲ受ケサル油槽ニハ排氣管ノミヲ設クヘシ
前項ノ排氣管ハ甲板上ニ開放シ其ノ端ヲ下方ニ屈曲シ徑一吋ヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ端ニ金網ヲ装置スヘシ

第二百三十二條 揮發油槽ノ開口ニハ容易ニ取外シ得ヘキ堅牢ナル金網ヲ装置スヘシ

第二百三十三條 油槽ニ硝子驗油計ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ニ容易ニ開閉シ得ヘキ瓣、嘴子又ハ其ノ他ノ装置ヲ爲スヘシ

油槽ニハ適當ナル油受盤ヲ備フヘシ

第二百三十四條 氣槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ壓力計ヲ備ヘ且最大壓力ヲ彫刻シタル金

屬板ヲ取附クヘシ

第三百三十五條 本編第三章第二十九條乃至第三十一條、第三十三條乃至第三十六條、第三十八條、第三十九條、第五章第七十條、第七十三條、第七十五條及第八十八條乃至第九十一條ノ規定ハ發動機ニ之ヲ準用ス但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則

(大正十一年一月省令第三號)

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

支水隔壁ノ構造、寸法及固著ハ明治四十三年^六月^六遞信省令第六十四號造船規程ニ合格スルトキハ當分ノ内之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

(參 照)

明治四十三年^六月^六遞信省令第六十四號

造船規程中拔萃

(參照)

明治四十三年^{六月}遞信省令第六十四號造船規程中拔萃

第十三章 支水隔壁

第四條 支水隔壁板ノ厚ハ肋板又ハ内底板ノ上面ニ於ケル隔壁ノ底部ヨリ最下甲板ニ至ル深ノ二分ノ一ノ所迄ハ第九號甲板ニ掲クル肋板又ハ内底板ノ上面ニ於ケルモノノ厚ニ等シクスヘシ又該部ヨリ上部ニ至ルニ從セ同表ニ掲クル上甲板ニ於ケル厚迄漸次減少シ甲板ノ層數二層以上ヲ具フル船舶ニ在リテハ上部甲板間ニ於テハ〇・二六吋、第二甲板間ニハ〇・三吋、第三甲板間ニ於テハ〇・三四吋ト爲スコトヲ得

支水隔壁ハ第九號甲板ニ掲クル山形材ヲ以テ船側、甲板及二重底ノ内底板ニ固著スヘシ但シ普通肋板ヲ具フル船舶ニ於テハ第一數四十二以上ナルトキハ二列釘ヲ以テ肋板ニ固著スヘシ

第五條 支水隔壁ニハ第九號乙表ニ掲クル防撓材ヲ堅ニ二呎六吋以内ノ距離ニ設クヘシ

防撓材ノ上下兩端ハ肘板ヲ以テ固著スルカ又ハ其ノ他適當ノ方法ヲ以テ固著スヘシ

但シ上部甲板間ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第一數五十未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第六條 堅防撓材ニ代用スル矩形板ノ幅十二吋以上ナルトキハ船側縱通材ニ用ウル山形材及隔壁板ノ厚ニ等シキ厚ヲ有スル斷切板ヲ以テ構成スル橫防撓材ヲ十呎以内ノ距離ニ設クヘシ

第七條 上下兩端ノ固著ニ肘板ヲ要スル防撓材ヲ木甲板ニ止ムルトキハ隔壁ト之ニ鄰接スル梁トノ間ニハ鋼板ヲ張詰メ肘板ヲ以テ防撓材ヲ該鋼板ニ取附クヘシ

第八條 船首隔壁ニ於テハ堅防撓材ノ心距ヲ二十四吋ト爲シ且船首艙ニ用ウル球山形肋骨ノ深ヨリ一吋深キ球山形材ノ橫防撓材ヲ最下層ノ甲板以下ニ於テ四呎以内ノ距離ニ設ケ肘板ヲ以テ之ヲ船側ニ固著スヘシ

第十一條 機關室隔壁カ副汽罐室、進力受臺室等ノ爲艙梁以上ノ位置ニ於テ屈折スルトキハ其ノ部分ニ於テ適當ノ補強ヲ爲スヘシ

大正十三年十月九日印刷

大正十三年十月十日發行

發行者 遞信省管船局

印刷者 遞信省經理局

大正十三年十月十日
大正十三年十月十日

大正十三年十月十日
大正十三年十月十日



